平成29年度企画展Ⅳ

全国の装飾古墳シリーズ ～福井県の装飾古墳～

ヲホド大王と越の国の装飾古墳

熊本県立 装飾古墳館

くまもとの装飾古墳

ご挨拶

熊本県立装飾古墳館は、平成４年の開館から装飾古墳を専門とする博物館として、調査・研究・企画・展示・公開等を継続的に実施してきました。

このたびは、企画展「全国の装飾古墳シリーズ 12」として福井県の装飾古墳を紹介します。

福井県では、４世紀終わり頃から５世紀にかけて石棺系の装飾古墳が造られています。その後、一時的に中断したのち、５世紀前半から後半にかけて再度装飾古墳が造られました。

また、福井県（越の国）を治めていた豪族から天皇になったヲホド大王（おおきみ）（のちの継体天皇）は、同時期に九州で一大勢力を誇った筑紫（ちくし）の君磐井（きみいわい）と、九州の覇権を競いあったことで知られています。

この企画展を通して、菊池川流域の日本遺産の構成文化財である装飾古墳を広く皆様に知っていただく機会になればと思います。

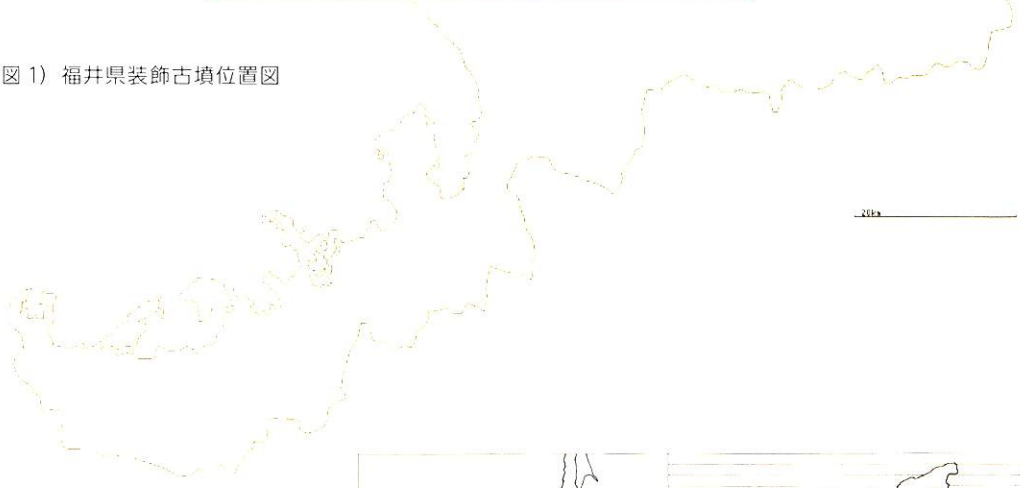
熊本県立装飾古墳館　館長　宗村 士郎

関係機関及び協力者
（個人名につきましては 50 音順で記載させて頂いています。なお敬称は略させて頂きます。）

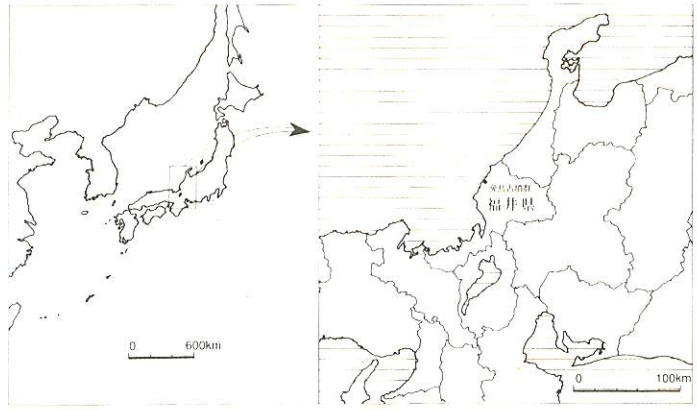
福井県立埋蔵文化財調査センター、福井県立歴史博物館、福井県立若狭歴史博物館、福井市文化財保護センター、福井市立郷土歴史博物館、敦賀市立博物館、若狭町立若狭三方縄文博物館、青木豊昭、天谷賢一、有馬香織、赤澤徳明、永江寿夫、酒井健治、田邊朋宏、外岡慎一郎、松村知也、水村伸行

福井県装飾古墳分布図

（図 1）福井県装飾古墳位置図



Craft MAP(http://craftmap.box-i.net/)



（図 2）免鳥古墳群範囲確認調査概要報告書
（福井市文化財保護センター）より転載

古墳名	所在地	墳丘	時代	装飾の部位・種類等
免鳥長山古墳	福井市免鳥町	帆立貝式前方後円墳	5世紀前半	棺蓋の表に三角文を浮彫、棺蓋裏に船の櫂または旗を線刻
新溜古墳	福井市篠尾町	円墳	6世紀初頭頃	石棺上蓋の縄掛突起にX文を線刻
山頂古墳	福井市足羽上町	円墳	4 世紀末頃	棺身　直弧文を線刻
牛ヶ島石棺	坂井市	不明	4 世紀末頃	縄掛突起　三角文を線刻
小山谷古墳	福井市小山谷町	不明	4 世紀末頃	棺蓋に同心円文を浮彫

（表 1）福井県内の装飾古墳一覧

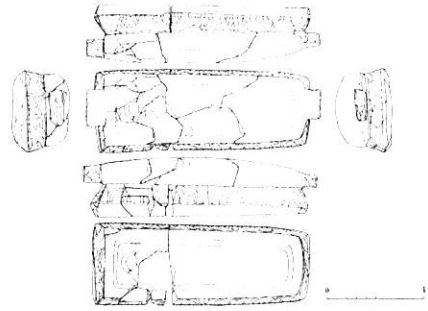
山頂古墳（足羽山古墳群）　県史跡

所 在 地：福井県福井市足羽
墳　　形：円墳
全　　長：約50m
埋葬施設：舟形石棺
時　　代：4世紀末頃
概　　要：

山頂古墳のほか、宝石山、小山谷、柄鏡塚、大塚、稲荷山、龍ケ岡など、足羽山一帯に営まれた古墳群です。昭和26年に、山頂古墳、龍ケ岡古墳、稲荷山古墳、国尾古墳が発掘調査されました。山頂古墳の石棺は、越の国（今の福井県）の古墳文化の特色である、足羽山から産出する笏谷石が用いられています。

この古墳は、竪穴式石室内に舟形石棺が埋納されていました。石棺身には石枕が備えられ、棺の外面には直弧文が浮彫で表現されています。この直弧文の装飾は、福岡や熊本の北部で多く見つかっています。

（図 3）


（図 4）石棺実測図　福井市史より転載

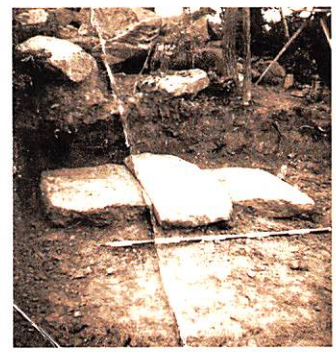
（写真 1）石棺　福井市立郷土歴史博物館提供

（写真 2）管玉

（写真 3）儀仗具

（写真 4）山頂古墳の発掘状況①
福井市立郷土歴史博物館提供

（写真 5）山頂古墳の発掘状況②
福井市立郷土歴史博物館提供


（写真 6）山頂古墳の発掘状況③
福井市立郷土歴史博物館提供

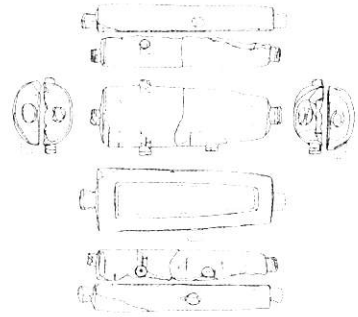
牛ヶ島石棺

所　在　地：福井県坂井市丸岡町
墳　　形：不明
全　　長：不明
埋葬施設：舟形石棺
時　　代：4世紀末頃
概　　要：

牛ヶ島石棺は、福井県の越前地方で最も古い段階のものであると考えられています。刳抜式舟形石棺の上蓋に線刻で三角文が描かれています。かつてこの地を治めていた振媛一族の石棺とも言い伝えられています。

丸岡町牛ヶ島地区の白山神社近くの御野山古墳から出土したとされています。

(図 5)



(図 6) 石棺実測図　福井市史より転載

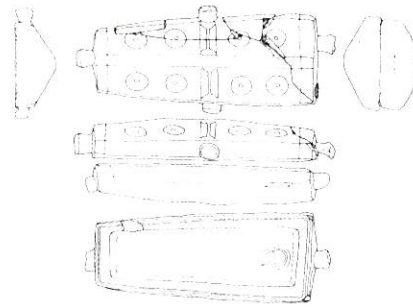
小山谷古墳

所　在　地：福井県福井市小山谷町
墳　　形：不明
全　　長：不明
埋葬施設：舟形石棺
時　　代：4 世紀末頃
概　　要：

墳丘、墳形とも不明です。笏谷石製の刳抜式の舟形石棺です。舟形石棺はその形状が丸木船に似ていることから名づけられました。この石棺では上蓋の両端に縄架け突起が付けられており、棺身には石枕が作り出されています。この石棺の装飾は上蓋の表面にあり、鏡を模したと考えられる同心円文が左右に4個浮彫で描かれています。

この石棺は現在、東京国立博物館に所蔵されています。

(図 7)



(図 8) 石棺実測図　福井市史より転載

免鳥長山古墳（めんどりながやま）　国史跡（平成 20 年度）

所 在 地：福井県福井市免鳥町
墳　　形：前方後円墳
全　　長：90.5m
埋葬施設：舟形石棺
時　　代：5 世紀前半
概　　要：

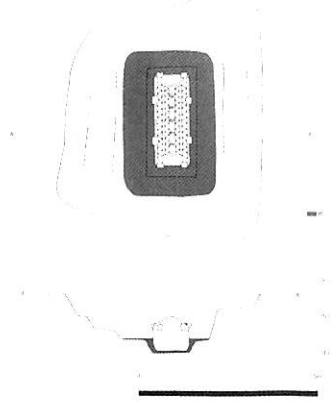
（図 9）

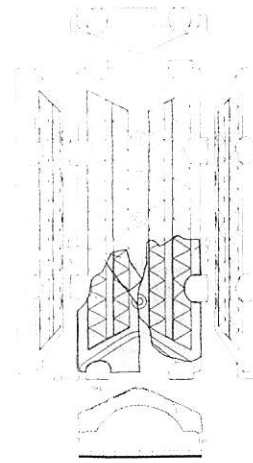
日本海を望む丘陵の尾根上に築かれた、短い前方部を有する帆立貝（ほたてがい）式と呼ばれる前方後円墳です。平成 14 年度から 16 年度にかけて、古墳の全容を確認するための調査が実施されました。墳丘は後円部が 2 段に築かれており、2 箇所に方形の造り出しがあることが確認されました。また、1 段目と 2 段目のテラスには円筒埴輪や朝顔形埴輪が並べられていたようです。墳丘の斜面には葺石が敷き詰められていました。

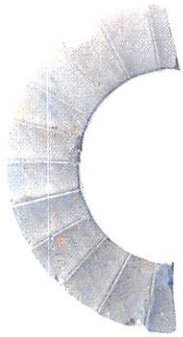
後円部に設けられた埋葬施設には、笏谷石（しゃくたにいし）製の舟形石棺が納められており、石棺の上蓋には鋸歯文や同心円文の浮彫が描かれていました。

盗掘により、石棺が破壊されていましたが、石棺材の周辺からは、いくつもの副葬品が見つかっています。中でも環頭形石製品（刀剣の柄飾り）や鍬形石、車輪石は、この古墳に埋葬された人物が福井平野一円を治めた有力者であることを物語っています。

（図 10）トレンチ配置図
免鳥古墳群範囲確認調査概要報告書
（福井市文化財保護センター）より転載


（図 11）埋葬施設推定復元図
免鳥古墳群範囲確認調査概要報告書
（福井市文化財保護センター）より転載

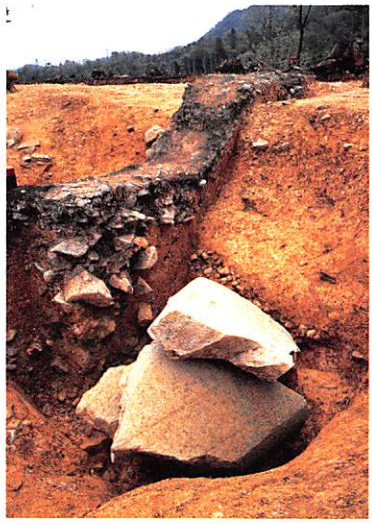

（図 12）石棺復元図
免鳥古墳群範囲確認調査概要報告書
（福井市文化財保護センター）より転載


（写真 7）車輪石
福井市教育委員会提供

（写真 8）環頭形石製品
福井市教育委員会提供

（写真 9）装飾石棺出土状況①
（撮影　牛島茂）　福井市教育委員会提供

（写真 12）装飾石棺片線刻①　福井市教育委員会提供



（写真 10）装飾石棺出土状況②
（撮影　牛島茂）　福井市教育委員会提供

（写真 13）装飾石棺片線刻②　福井市教育委員会提供

（写真 11）装飾石棺近景
（撮影　牛島茂）　福井市教育委員会提供

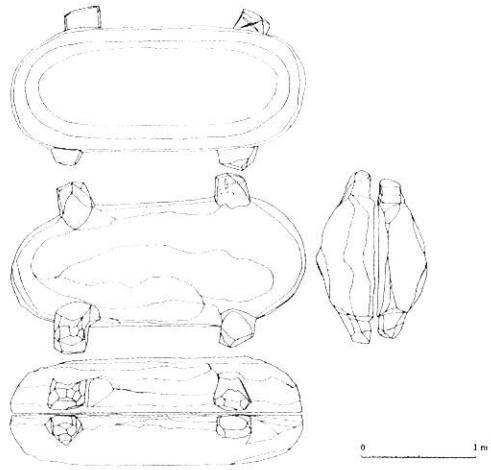
（写真 14）装飾石棺片線刻①と②　福井市教育委員会提供

新溜（しんどめ）古墳

所　在　地：福井県福井市篠尾町
墳　　形：円墳
時　　代：6 世紀初頭頃
概　　要：

新溜古墳の石棺は、棺蓋と棺身の左右両側に各二個の縄掛突起があります。この縄掛突起のひとつにX字状の線刻が描かれています。また、棺蓋の表面に十字状の線刻が描かれていますが、この線刻は追葬の際に石棺を開閉するとき、身と蓋をうまく合わせるための目印であるとする説があります。

（図 13）



（図 14）石棺実測図
福井市史より転載

（写真 15）石棺　（松村知也氏撮影）

（写真 16）石棺　（松村知也氏撮影）

神奈備山古墳（横山古墳群）県史跡

※非装飾古墳

所 在 地：福井県あわら市瓜生、中川及び
坂井市丸岡町坪江、川上
全　　長：約60m
墳　　形：前方後円墳
時　　代：6世紀中頃
概　　要：

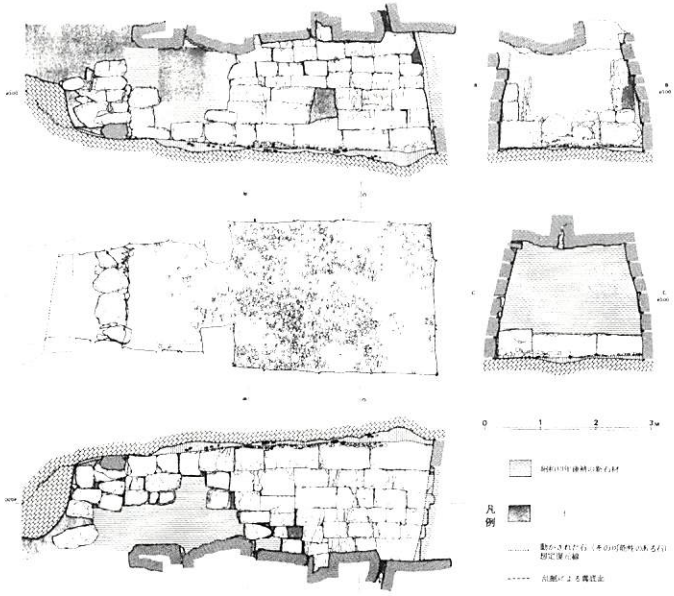
（図 15）

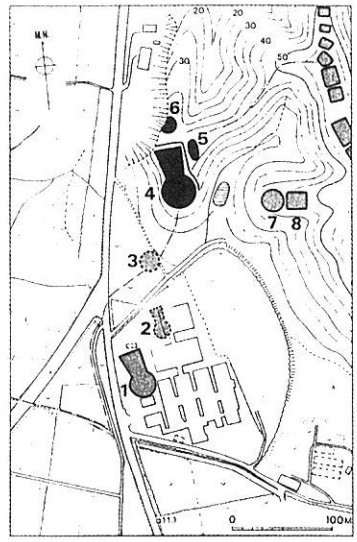
神奈備山古墳のある横山古墳群は、坂井平野北東部の坂井市丸岡町坪江から、あわら市中川にまたがる横山丘陵上に所在しています。丘陵南西部･同北西部･山頂部のそれぞれに、グループごとに築かれているようです。

丘陵南西部の椀貸山古墳は、全長約 45m の 6 世紀前葉の前方後円墳で、2 段築成の墳丘に周濠を持ち、葺石が敷きつめられ、埴輪が備えられていました。石室は九州の熊本にも多く見られる、石屋形を持つ横穴式石室です。

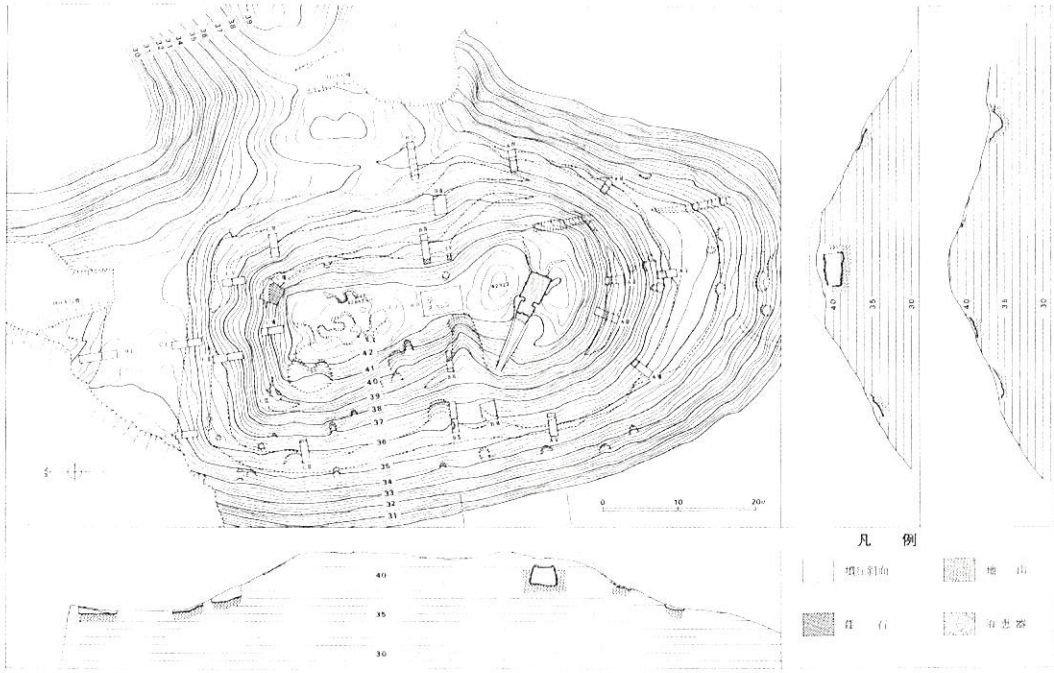
今回の展示で紹介する神奈備山古墳は、これまでの調査により、2 段築成の墳丘を持ち、葺石を備えていることが判明しています。

この古墳にも石屋形が設けられています。副葬品も多く出土しており、越の国（今の福井県）の全域を治めていた首長墳であると考えられています。


（図 16）石室実測図
福井県埋蔵文化財調査報告書第 2 集重要遺跡緊急確認調査報告（I）
（福井県教育委員会）より転載



（図 17）坪江 1 ～ 8 号墳分布図
福井県埋蔵文化財調査報告書第 2 集重要遺跡緊急確認調査報告（I）
（福井県教育委員会）より転載



（図 18）神奈備山古墳の試掘調査位置
福井県埋蔵文化財調査報告書第 2 集重要遺跡緊急確認調査報告（Ⅰ）
（福井県教育委員会）より転載

（写真 17）鉄地金銅鞍海･磯金具片（馬具）

（写真 19）鉄芯銀被捩文環頭大刀把頭片（刀飾り）

（写真 18）金銅半球形飾金具（馬具）

（写真 20）鉄鏃

特別寄稿

福井市・免鳥長山古墳出土石棺の装飾の意義

熊本県教育委員会　福田 匡朗

はじめに

福井市・免鳥長山古墳は、5世紀前半ごろに築造されたとされる、福井市免鳥町に所在する全長90.5mの帆立貝式古墳であり、福井平野の歴代首長墓系譜に連なると考えられ、平成20年に国指定史跡になっている。免鳥長山古墳は中世以降、数度に亘り、盗掘を受けており、石棺が破壊されていたが、石製品、玉類、鉄製武器類、埴輪などの出土が知られる。この笏谷石製の舟形石棺の装飾は、石棺の蓋には三角文、同心円文が浮彫されていることが注目される。

熊本県立装飾古墳館では、平成29年度に企画展、全国の装飾古墳シリーズ12『福井県の装飾古墳』展を開催するが、平成28年12月に出土遺物の資料調査を行った。その折、福井市文化財保護センターにおいて、出土石棺片を実見した際、従来、知られていた装飾の他にも、石棺の内面の合わせ口に装飾があることを確認した為、その意義を報告したい。

1. 免鳥長山古墳出土石棺片の線刻について

本資料については、石棺の内面の合わせ口に少なくとも二ヶ所、線刻が施された箇所があることを確認した（線刻①・②）。目視により、これらの線刻は、石棺製作の際の調整痕の上から施工しているものと判断した。

線刻1　長・短軸4cm内外の範囲において、斜めの線を少なくとも4本以上線刻しているが、櫂を表現していると解釈した。

線刻2　長・短軸3cm内外の範囲において、縦線が一本線刻されており、帆柱を表現していると考える。縦線の左側には、横線が6本以上、線刻されている。この横線は船上でなびく旗と解釈した。

2. 免鳥長山古墳出土石棺片の解釈について

今回、目視により実見した石棺片は破片であるが、線刻1・2の情報からは、本来、石棺の内面の合わせ口には船（団）が海上を航行する風景が線刻されていた可能性が高いと考えられる。

そうであれば、線刻された船（団）は何を意図したものであろうか。装飾古墳に描かれた船の装飾は、本古墳のように線刻だけでなく、彩色の装飾古墳にも認められる。

なお、全国の装飾古墳の大多数が集中する九州地方では、5世紀頃から7世紀前半ごろまで確認されているが、線刻系の分布の中心は長崎県壱岐市、熊本県宇土市周辺にあるとされる（西山2002）。いずれの地域も古くから海上交通の要所であり、海運がこれらの地域の首長層の生産基盤にあること、線刻された装飾は首長層の活躍を示すものと考えられる。

ここでは、線刻系の装飾古墳に言及したが、古墳に倒立された円筒埴輪にも記号や絵画がみられることがある（辰巳1992）。奈良県田原本町・唐古・鍵遺跡（末永・小林ほか1943）の事例のように、櫂を表現しない線刻の船は、葬送儀礼を観念的に表現したものとも考えられる。

本古墳の石棺片と比較できる資料としては、奈良県天理市・東殿塚古墳（天理市編2000）があり、船の櫂、帆柱、旗が表現されている。葬送儀礼を表現したとするよりも、実際の海上交通における往来の様子を描いたものであり、本古墳においても、日本海を眺望できる古墳の立地からも、免鳥長山古墳の被葬者の生前の活躍の姿を表現したものと考えたい。

おわりに

本稿では、免鳥長山古墳の石棺片について、今回確認した石棺の内面の合わせ口の線刻の意味を言及した。その中で円筒埴輪に描かれた絵画との関連も指摘したが、円筒埴輪に描かれた船の櫂、旗が破片資料であるとはいえ、石棺に線刻された意義は非常に大きい。

残された課題は、石棺の表に浮彫された三角文と同心円文との関係の解明であり、施工した工人が同一人物ないしは同一集団であるか、各々の装飾の前後関係が解明できるか、今後も類例の精査を継続する必要がある。

参考文献
末永雅夫・小林行雄・藤岡謙二郎 1943『大和唐古弥生様式遺跡の研究』京都帝國大學文學部考古學研究報告 16
辰巳和弘 1992『埴輪と絵画の考古学』白水社
田邊朋宏 2016「越前の石棺動態」『研究集会 海の古墳を考えるV 日本海の潟湖と古墳の動態―北陸からの視点―予稿集』
天理市教育委員会編 2000『西殿塚古墳 東殿塚古墳』天理市埋蔵文化財調査報告第7集
西山由美子 2002「古墳に描かれた船」『第51回埋蔵文化財研究集会 装飾古墳の展開～彩色系装飾古墳を中心に～』埋蔵文化財研究会
福井市文化財保護センター編 2010『平成22年度企画展　大陸をみつめた王たち～5世紀のふくいから～』

（写真21）線刻①（左）と②（右）

（写真22）線刻①

（写真23）線刻②

画像はいずれも福井市教育委員会提供

全国の装飾古墳シリーズ 12
平成 29 年度企画展Ⅳ

ヲホド大王と越の国の装飾古墳

発行日：2017年11月11日
編集・発行：熊本県立装飾古墳館
〒861-0561　熊本県山鹿市鹿央町岩原3085番地
TEL 0968-36-2151(代)　FAX 0968-36-2151
印刷：株式会社 協和印刷

この電子書籍は、熊本県立装飾古墳館 企画展図録 第25集を底本として作成しました。閲覧を目的としていますので、精確な図版などが必要な場合には底本から引用してください。

底本は、熊本県内の市町村教育委員会と図書館、全国の歴史博物館、考古学を教える大学、国立国会図書館などにあります。所蔵状況や利用方法は、直接、各施設にお問い合わせください。

書名：ヲホド大王と越の国の装飾古墳
発行：熊本県立装飾古墳館
〒861-0561　熊本県山鹿市鹿央町岩原3085番地
電話：0968-36-2151
URL：http://kofunkan.pref.kumamoto.jp/
電子書籍制作日：西暦2018年6月1日